

経営発達支援計画の概要

<p>実施者名 (法人番号)</p>	<p>稲武商工会 (法人番号 5180305006133) 豊田市 (地方公共団体コード 232114)</p>
<p>実施期間</p>	<p>令和3年4月1日から令和8年3月31日</p>
<p>目標</p>	<p>1. 買物支援や稲武産ギフトの通信販売を通して、人口減少と高齢化に立ち向かう小規模事業者の販路開拓の支援を行う。 2. 観光交流・都市交流資源を活用し、小規模事業者の創業・事業承継そして販路開拓の支援を行う。</p>
<p>事業内容</p>	<p><b>【経営発達支援事業の内容】</b></p> <p>1. 地域の経済動向調査並びに需要動向調査に関すること 地域内の企業や関係機関と情報共有し、市内全域の経済動向を巡回指導等で提供する。また、稲武地域来訪者へのアンケート、バイヤーとの情報交換会で得た情報を販路開拓や新商品開発を目指す小規模事業者に提供する。</p> <p>2. 経営状況の分析に関すること 小規模事業者に経営状況の分析の重要性を啓発し、経営分析対象者を積極的に掘り起こす。経営状況の分析結果は事業計画策定に役立てる。</p> <p>3. 事業計画策定支援に関すること 小規模事業者の経営方針・目標と今後のプランを取りまとめた事業計画策定の支援と専門家派遣等のサポートを実施する。また、ワンストップ創業支援窓口を設置し、創業予定者や事業継承対象者と意見交換し、事業計画策定に向けたきめ細かな支援を行う。</p> <p>4. 事業計画策定後の実施支援に関すること 策定した経営計画が順調に進むよう進捗状況のフォローアップを実施する。また、創業予定者や事業継承対象者に対しては、豊田市創業サポート連絡会と情報の共有化（創業支援カルテ）をはかり、計画の進捗状況をフォローアップする。</p> <p>5. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること 展示会、商談会等以下の事業を実施し、出展ノウハウや売上アップ、更には知名度アップを目指す。 (事業)道の駅内へのアンテナショップの開設、おいでん!とよたの特産品展、いなぶのお買物配達便、いなぶのギフト受注事業</p>
<p>連絡先</p>	<p>稲武商工会 〒441-2513 愛知県豊田市稲武町タヒラ 1-4 TEL:0565-82-2640 FAX:0565-82-3063 メール:info@inabu.or.jp 豊田市産業部商業観光課 〒441-2513 愛知県豊田市西町 3 丁目 60 TEL:0565-34-6642 FAX:0565-34-4317 メール:shoukan@city.toyota.aichi.jp</p>



(別表1)

経営発達支援計画

経営発達支援事業の目標

1. 目 標

(1) 地域の現状及び課題

① 位置・地勢

稲武商工会のある稲武地区は、愛知県の北東端に位置し、北は岐阜県恵那市（人口4.8万人）、東は長野県根羽村（人口9百人）に隣接している。1940年に稲橋村と武節村が合併して成立、2005年に周辺5町村とともに豊田市に編入、2008年田口高校稲武分校が廃校となり、稲武地区の高等教育機関が消滅すると人口減少に拍車がかかった。

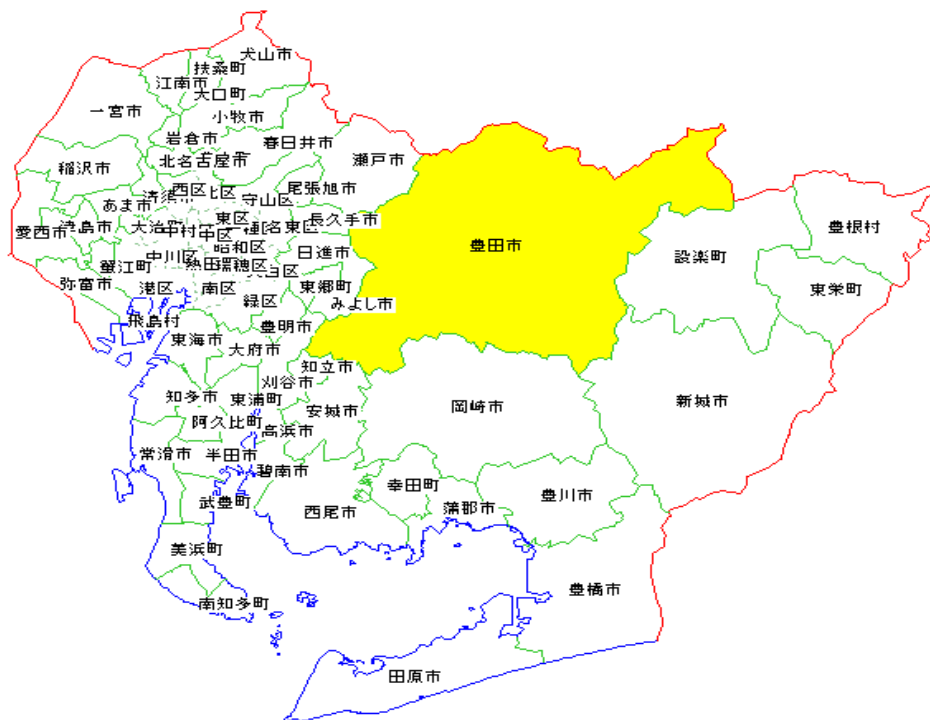
かつては農林業を基幹産業とする山間地であったが、社会構造の変化に伴って、第1次産業は後退をして、第2次、第3次産業へと就業形態が変わり、全国の山村と同様に過疎化が進んでいる。

天竜奥三河国定公園と愛知高原国定公園が東西に広がる自然に恵まれたエリアで、木曾山脈に属する段戸山系の高い山々が南部に連なり、矢作川水系の名倉川、黒田川、野入川、段戸川の諸河川はこれらの山々を源とし、北に向かって流れ、矢作川に注ぐ。南高北低のやや菱形の形をしており、矢作川とその支流沿いに集落が点在する。

標高は北部の低地域で320m、中央丘陵地区で500m、周りは800～1,000mの高い山々に囲まれている（最高地点は1240m）。総面積は98.63km<sup>2</sup>（豊田市の面積の10.7%）で、その87%は山林で平地が非常に少ない。

年間平均気温は11.5℃、豊田市の中心部と比較して3℃前後低く、毎月の平均気温は岐阜県高山に近く、年間降水量は2,000mm弱であり、日本の降水量年平均1718mmよりも多い。

[愛知県豊田市]



[旧町村と20km、50km圏]



②交通

名古屋から猿投グリーンロード経由で、また豊田市中心市街地や飯田市、中央自動車道中津川IC、東海環状自動車道豊田勘八ICからいずれも車で約1時間。

地区のほぼ中央、名倉川と黒田川の合流地点に位置する市街地は、三州街道沿いの宿場町（武節宿）として発展してきた。現在も東西に伸びる国道153号（愛知県名古屋市から長野県塩尻市）と南北に伸びる257号（静岡県浜松市から岐阜県高山市）が稲武地区の中央で交差し、三河山間地における交通の要衝となっている。153号は、「新しさからなつかしさ塩の道～中馬街道」として、豊田市中心市街地から長野県境までのエリアが日本風景街道に指定されている。

また、稲武地区の悲願であった、国道153号の伊勢神トンネル新設を含めた「伊勢神改良事業」が動き出した。この伊勢神トンネルは大型同士の擦れ違いが困難であり、観光バスが敬遠するトンネルであった。しかし、この「伊勢神改良事業」により観光バスを呼び込み、観光交流・都市交流資源の活用が進むことが期待されている。



大型車の擦れ違いが困難



[主要道路、高速道路インターチェンジ]



**🚗お車でのアクセス** .....

- 名古屋方面** 東名高速道路「名古屋」ICより→猿投グリーンロード→R153経由→約80分
- 豊田方面** 東海環状自動車道「豊田勤八」ICより → R153経由 → 約50分
- 飯田方面** 中央自動車道「飯田山本」ICより → R153経由 → 約60分
- 恵那方面** 中央自動車道「恵那」ICより → R257経由 → 約50分
- 浜松方面** 新東名高速道路「新城」ICより → R257経由 → 約60分
- 豊川方面** 東名高速道路「豊川」ICより → R151 → R257経由 → 約80分

なお、2027年度開業予定をしているリニア中央新幹線のリニア岐阜県駅は、中津川市に設置予定。関係する岐阜、愛知、長野にまたがる「リニア中央新幹線を活かした地域活性化協議会」に加入している。

[リニア中央新幹線を活かした地域活性化協議会（44商工会議所・商工会）]

（商工会議所）多治見、中津川、土岐、瑞浪、恵那、可児、関、美濃、美濃加茂、瀬戸、豊田

（商工会）御嵩町、藤岡、南木曽、笠原町、大桑村、東白川村、坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、中津川北、恵那市恵南、関市西、関市東、小原、足助、旭、下山、稲武、萩原町、小坂町、下呂、金山町、下呂市馬瀬、高山北、白川村、古川町、北飛騨、上松町、木祖村、木曾町

### ③歴史

戦国時代には武田の軍用道路として1571年（元龜2年）に信玄が本格的な三河侵攻を始めた時に大軍を引き連れて通った街道であり、三河の地に踏み入れた最初の地が稲武だった。1575年（天正3年）に、長篠の戦で武田勝頼は織田・徳川連合軍に敗れ、武節城に泊まり梅酢湯でもてなした言い伝えがある。武節城は、1504年から1520年（永正年間）に田峯城主菅沼定信により築城され、1590年（天正18年）徳川家康の関東移封とともに廃城となる。

江戸時代には、塩の道の中馬街道（国道153号）と秋葉詣の美濃街道（国道257号）が交差する宿場町として栄えた。

1897年（明治30年）に稲武地区の原型ができ、1940年（昭和15年）に町制施行により「稲武町」が誕生し、2005年に豊田市に編入される。

2014年、安倍総理が所信表明演説において、豊田市稲武地区ゆかりの偉人 古橋源六郎暉兒（ふるはし げんろくろうてるのり／1813－1892）を紹介し注目を浴びた。

### 古橋源六郎暉兒について

「天は、なぜ、自分を、すり鉢のような谷間に生まれさせたのだ？」

明治時代の農業指導者、古橋源六郎暉兒（てるのり）は、貧しい村に生まれた境遇を、こう嘆いていたと言います。ある時、峠の上から、周囲の山々や平野を見渡しながら、一つの確信に至りました。

「天は、水郷には魚や塩、平野には穀物や野菜、山村にはたくさんの樹木を、それぞれ与えているのだ。」

三河古橋家5代目の次男として稲武に生まれ幼少の頃は何不自由なく生活していた。しかし10歳の時、古橋家の経営が苦しい事を知り、子供心に古橋家の再建に兄弟と協力しあい、古橋家の家政改革を着実に進めた。そんな中、天保の飢饉（1835年～1837年）に遭遇し、当時、村の名主代行であった暉兒は自分の家だけでなく、村人を救済した。さらに三河で最大の百姓一揆「加茂の騒立ち」が起きたが、一揆では何も解決できないと村民を説得し、代官所の支援を受け、米を村人に分け与えた。その後、村の繁栄を願い、植林、養蚕、お茶の栽培、子供たちの教育にも力をそそぐ。

人の為に、村の為に、そして国の為に…常に大きな視野で歴史を見つめ、時代を先取りした発想で働き続けた。（参考 とよたのアニメ人物記）

### ④豊田市稲武地区の人口推移

豊田市の人口は、424,053人（愛知県内2位）。国の人口は2008年（平成20年）にピークに達し、人口減少時代に入っているが、豊田市は増加を続けている。

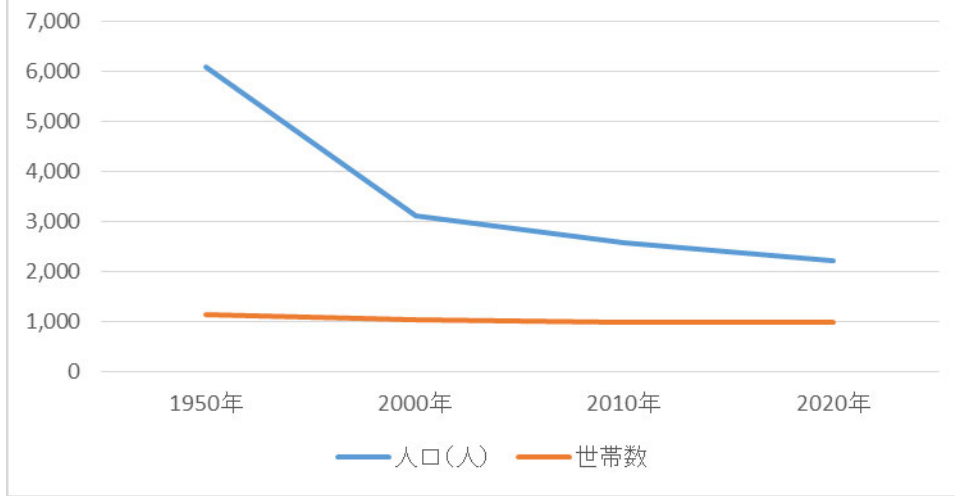
一方、稲武地区は、1950年（昭和25年）がピークで6,084人、現在は2,205人と大幅な人口減少が起きている。人口減少率は63.8%である。

年齢階級別人口を見ると、生産年齢人口（15～64歳）が43.8%と、成人ひとりが被扶養人口（年少人口と老年人口を合わせたものを）ひとり以上を支える状況である。

このことは、日本が抱える少子高齢化問題の顕著な現象であり、現在、労働者不足、医療や介護の担い手、買い物難民などの地域の問題を解決する担い手が不足していることと、将来、コミュニティの核となっている小中学校の存続が危ぶまれていることを示す。

しかし、豊田市が進める過疎・定住対策、空き家バンク制度に地域住民も参加しIターンするケースも増えてきている。

### 稲武の人口推移



〔人口推移の表〕

項目	1950年	2000年	2010年	2020年	1950年と2020年差	減少率(%)
人口(人)	6,084	3,111	2,563	2,205	3,879	63.8
世帯数	1,130	1,025	971	977	153	13.5

出典 1950、2000、2010年は豊田市統計資料平成25年度版(国勢調査)より  
2020年は豊田市庶務課提供「豊田市の人口(詳細データ)」4月時点より

〔年齢階級別人口〕

項目	0～14歳	15～64歳	65歳以上
男(人)	83	489	492
女(人)	71	477	593
合計(人)	154	966	1,085
割合(%)	7.0	43.8	49.2

〔豊田市の主な過疎・定住対策、空き家バンク制度〕

- ・都市と農山村の交流をコーディネートする組織「おいでん・さんそんセンター」の設置  
農山村をフィールドとする企業の社会貢献活動、都市部の地域と農山村部の集落の交流等、都市と農山村の交流の支援。
- ・里山暮らし体験館「すげの里」の設置  
都市と農山村の交流や農山村地域への定住を進めることを目的とした農業や宿泊体験、また、交流、講座、研修などが開催できる施設。
- ・田舎暮らし情報サイト「田舎体験・田舎暮らし in とよた」(豊田市HP内)  
豊田市の豊かな自然や山里生活に気軽に触れ合えるイベントや農業体験・森林体験の情報、農山村地域での定住に向けた情報を掲載。

- ・中山間地域空き家情報登録制度「空き家情報バンク」  
市内中山間地域に存在する空き家について、賃貸もしくは売却を希望する空き家の所有者と、田舎暮らしを目指す移住希望者が出会えるよう、市が空き家の情報提供と入居者の募集をするしくみ

〔稲武地区のIターン事例〕

● 松島周平さん「first-hand」

『やさしい生活』の提案をコンセプトに家具工房とカフェ+ショップを営んでいる。

- ・国産無垢材に拘ったオーダー家具の制作販売
- ・木工教室をはじめとした様々なワークショップ
- ・「長く使いたいくらしのどうぐ」「安全でおいしい」をコンセプトにセレクトした、日用品や食材を扱うショップ
- ・つながりのある農家さんのお米や野菜でつくる土・日・祝日のみのカフェ
- ・名古屋を中心に、顧客を持っている



カフェ+ショップ「ヒトトキー人と木ー」

● 石橋徹さん「ブリッジ」

ブルーベリーの栽培を行うために稲武に移住。栽培期間中、農薬、化学肥料は一切使わない特別栽培で育てたブルーベリーが自慢。観光農園（まいにちブルーベリー）やインターネット販売（ブルーベリーやジャム、米）を行うかたわら、もともとイベント会社に勤務していたため、イベント関連事業も請け負う。



まいにちブルーベリー

● 可児和義さん「米粉シフォンケーキの店アトリ」

「アトリ」は米粉にこだわった商品開発を行っており、「米粉100%のシフォンケーキ」が看板商品である。米粉を使うことで、しっとり、もっちりした独自の食感が生まれ、新鮮な卵をたっぷりあわせて仕上げている。道の駅だけでなく、地域外に販路拡大を目指している。



米粉100%シフォンケーキ

⑤豊田市ならびに稲武地区の産業

豊田市には13,981事業所、25万3千人の雇用がある。豊田市は「クルマのまち」として有名で製造品出荷額は13兆847億円（2014年）に上る。市内には860工場、10万6千人の雇用がある。うち、357工場（41.5%）、9万人（85.0%）が自動車関連の産業にあたる。



[豊田市と稲武地区の産業]

項目\地区	豊田市全域		稲武地区		割合(稲武地区内)	
	総数	従業者数(人)	総数	従業者数(人)	総数(%)	従業者数(%)
総数	13,981	253,165	170	1,141	100.0	100.0
農業, 林業	70	986	6	36	3.5	3.2
漁業	2	21	0	0	-	-
鉱業, 採石業, 砂利採取業	12	75	0	0	-	-
建設業	1,434	12,107	26	174	15.3	15.2
製造業	1,563	111,055	18	262	10.6	23.0
電気・ガス・熱供給・水道業	13	435	1	20	0.6	1.8
情報通信業	101	2,453	0	0	-	-
運輸業, 郵便業	326	10,683	4	26	2.3	2.3
卸売業, 小売業	3,108	30,019	43	263	25.3	23.0
金融業, 保険業	166	2,667	1	12	0.6	1.1
不動産業, 物品賃貸業	823	2,969	1	4	0.6	0.3
学術研究, 専門・技術サービス業	510	9,852	2	4	1.2	0.3
宿泊業, 飲食サービス業	2,081	18,763	27	123	15.9	10.8
生活関連サービス業, 娯楽業	1,280	7,861	16	73	9.4	6.4
教育, 学習支援業	540	5,789	3	14	1.7	1.2
医療, 福祉	853	17,705	10	66	5.9	5.8
複合サービス事業	90	2,202	2	13	1.2	1.1
サービス業(他に分類されないもの)	1,009	17,523	10	51	5.9	4.5

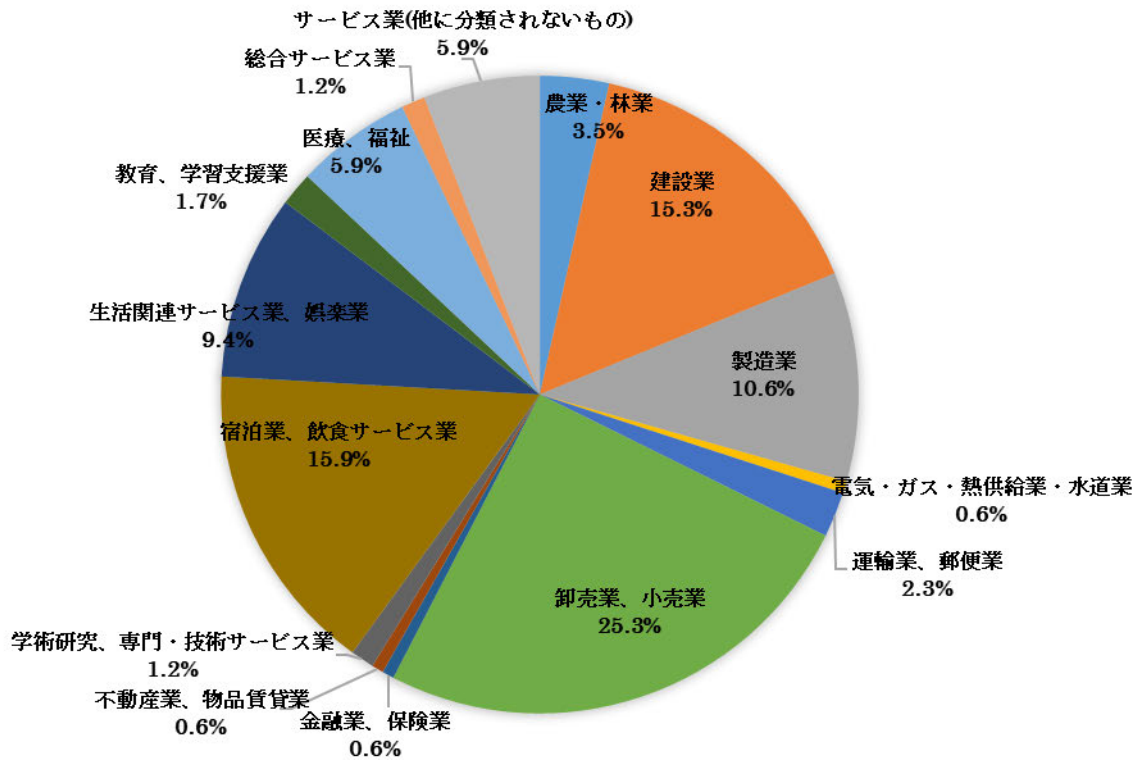
出典 豊田市統計資料平成 29 年度版より (平成 26 年 7 月 1 日現在)

[稲武地区の産業構成の特徴]

稲武地区全体では、170事業所、1,141人の雇用がある。

- ・建設業の割合が多い(稲武地区 15.3%、豊田市全体 10.3%)。林業の衰退以降、建設業が基幹産業となっていたが、公共工事の減少で異業種への参入するケースが目立つようになってきた。
- ・自動車関連の事業所は2工場、従業員数31人と自動車産業の恩恵は比較的少ない。
- ・製造業の中で漬物やお菓子をはじめとする食品製造業者が8社と比較的多いのは「道の駅どんぐりの里いなぶ」等の交流拠点の恩恵である。
- ・小売業者が比較的多く(稲武地区 25.3%、豊田市全体 22.2%)、規模は小さいが最寄品から買回り品まで多様な店舗が存在する。これは、人口2,200人強の稲武地区であるが、周辺地区を含めて5,000人強の商圈を有していることによる。
- ・「道の駅どんぐりの里いなぶ」等の交流拠点の周辺に飲食店(稲武地区15.9%、豊田市全体14.9%)の出店が続いている。

## 稲武地区の産業構成



### [稲武地区の業種転換・参入の事例]

これまで、建設業は地域の基幹産業であったが、公共工事の減少以降、観光交流・都市交流資源を活用すべく、異業種へ参入するケースが増えている。

#### ● (株) 杉田組

##### ・事業

公共工事を中心とした総合建設業（売上全体の9割）から観光農園を中心としたブルーベリー事業（売上全体の1割）へ参入

##### ・ブルーベリー事業参入の経緯：

建設業をめぐる厳しい経営環境を改善するため、また耕作放棄地の解消に少しでも役に立てばと思い、平成17年農業分野に参入。平成19年には正式に法人として農業に参入、建設業で培ってきた土壌改良の技術、機械力を活かし、耕作放棄地をブルーベリー園へと転換した。現在の栽培面積は4.0haで、夏の摘み取り観光園とブルーベリー生果の出荷を行っている。また、ブルーベリーの旬は夏場の一時期であるため、今後加工品製造販売に取り組むことで、繁忙期と閑散期のムラをなくし、雇用の維持と安定的な経営を目指している。平成25年度「6次産業化ネットワーク活動交付金」6次産業化の面的拡大につながる地域の取り組みとして東海農政局の支援を受けている。



ブルーベリーのこみち（摘み取り園受付）

● 「水耕房いなぶ」(安藤和央代表／(株)安藤組 代表取締役)

建設業から6次産業へ参入  
愛知県内唯一の発芽にんにくの水耕栽培に取り  
組む。(日に当てないようにして、白い発芽に  
んにくを栽培) 白い発芽ニンニクを使った、  
手軽にコクや旨味を加えられる加工品の開発・  
販売事業として、2013年6次産業化サポ  
ート認定を受ける。他社とタイアップして加工品  
に取り組む(焼肉のたれ、ドレッシング 他)。



● かめや かゞ庵

建設業から飲食店へ進出

長野県根羽村の建設業：片桐工務所が出店(平成25年)

創作料理の店

奥さんが中心となって営業

道の駅「どんぐりの里いなぶ」と国道153号線を挟んだ反対側に店舗を構える。日本酒・焼酎・  
ワイン・カクテルの品ぞろえが充実。

食材も生産者に拘った洋風創作料理を提供し、その食材等の説明には誰もが興奮を覚える。

団体で予約すると貸切で対応する。

⑥道の駅どんぐりの里いなぶ

国道153号と257号の交差点西側400mに温泉と直売と体験交流施設を併設した道の駅  
「どんぐりの里いなぶ」がある。稲武温泉「どんぐりの湯」、農産物直売施設「どんぐり横丁」と  
伝統文化体験施設「どんぐり工房」が併設され、どんぐり横丁では年間40万人を超す方が買い  
物や飲食をし、来訪者全体では100万人～150万人になると言われる稲武地区最大の産業で  
ある。

平成27(2015)年1月に地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で  
効果的な取組が期待できるものとして「重点『道の駅』」に選定され、観光案内、地方移住等促進、  
産業振興について総合的な支援が受けられることになり、令和4年7月のリニューアルオープン  
に向けて、増築工事に入ることとなった。

[国土交通省が地方創生の核となる「道の駅」を支援]

全国モデル「道の駅」	地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮していると認められるもの
重点「道の駅」	地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できるもの
重点「道の駅」候補	地域活性化の拠点となる企画の具体化に向け、地域での意欲的な取組が期待できるもの

どんぐりの里の歴史をさかのぼると、稲武町時代に策定された第3次総合計画(平成3年～12年)に、その始まりがある。戦後、文化が進み、道が開け、伊勢神トンネルが整備され車社会になった。名古屋、豊田方面から来るドライバーの目は信州に向けられ、稲武は立ち寄る人も少

なく、「通過の町」となってしまった。また、昭和25年ごろを人口ピークとして過疎化、若者の流出と生まれる子どもの大幅な減少は、地域社会や経済に大きな影響を与えた。稲武を温泉のある観光、保養の町に変え、雇用の場づくりと、リゾート、観光レクリエーション関連事業を推進、平成5（1993）年温泉の掘削を始めた。

温泉は、福祉センター「ユートピアいなぶ」の給湯にはじまり、さらなる活用方法を検討し健康増進施設を設置することとなった。これが現在の「どんぐりの湯（平成10年オープン）」である。また、ドライバーが立ち寄るトイレ・休憩する道の駅に認定され、農産物直売施設「どんぐり横丁」を併せ持つ「道の駅」が翌11（1999）年4月にオープンした。

どんぐり横丁は、①稲武産ミネアサヒ、②地場産、③米粉パンをこだわりの重点方針とし加工・販売し、日本人の主食である米にこだわった経営を行っている。稲武には、愛知県山間農業研究所があり、水稻の品種改良で全国に知られている研究所である。

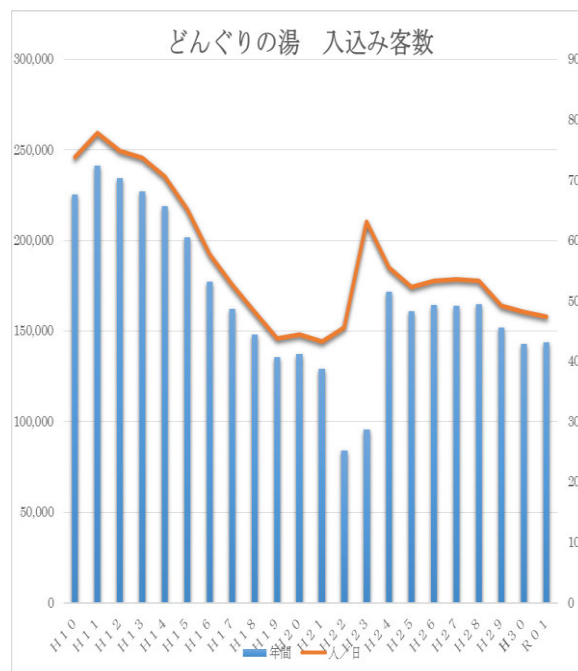
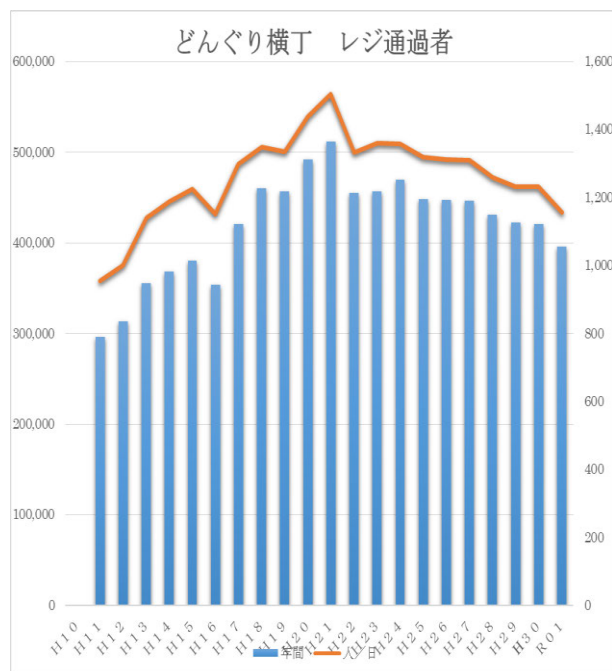
従業員数60人、売上高4億円（平成30年度、どんぐりの里いなぶ総売上（どんぐり横丁+どんぐりの湯）、うち地元産の農作物、加工品、民芸・工芸品などの売上が7割を占めており、地域振興に寄与する影響は非常に大きい。

どんぐり工房は、山里に残された「自然」や受け継がれた「農林業」、あるいは「食」や「工芸」などの知恵と文化を、体験を通して伝える施設。稲武地区内にあった明治12（1879）年建築の茅葺の古民家を移築した建物。

「自然体験環境学習」「農林業体験」「味覚体験（料理）」「伝統工芸クラフト創造」「歴史・文化体験」と、5つのテーマで年間12,287人（うち体験利用は2,449人）、施設見学者9,106人の入館がある（令和元年度の実績）。

最近、地元資料館「古橋懐古館」で展示されている道具「桶」の利用方法が判明した。桶は、桶茶の道具で、番茶を泡立てて飲む庶民文化として明治時代ごろまで行われており、武田勝頼にふるまったとも言われているが消滅した。このように地域に埋もれた文化や歴史を観光資源として商品化する試みが、どんぐり工房では行われている。

[どんぐり横丁、どんぐりの湯 入込み客数]



※2010年11月30日から2011年10月1日はどんぐりの湯リニューアル工事を実施。

道の駅どんぐりの里いなぶ（全景）



### ⑦稲武地域まちづくり推進協議会

平成27年1月に道の駅「どんぐりの里いなぶ」が国土交通省の選ぶ重点道の駅35箇所の一つに選ばれた。道の駅「どんぐりの里いなぶ」はレジ通過者が年間40万人を超える稲武地区の交流拠点である。この道の駅「どんぐりの里いなぶ」を中心に稲武地域のまちづくり構想の策定や稲武地域で行われる各種イベントの連携や調整をはかるため、「稲武地域まちづくり推進協議会」が平成27年6月26日に設立した。

構成員【豊田市／稲武商工会／いなぶ観光協会／稲武地域会議／稲武地区区長会／豊田市社会福祉協議会／稲武地域営農協議会／ファームいなぶ／JAあいち豊田／（一財）古橋会／㈱どんぐりの里いなぶ／OPENいなぶ／定住促進協議会／雇用創出検討委員会／生活交通利用促進委員会／林業振興協議会】

### ⑧世界ラリー選手権

令和2年11月に世界ラリー選手権が豊田市を含めた愛知・岐阜で開催予定であったが、コロナ禍により中止となった。稲武地区でも、シロキヤラリー、セントラルラリー等の誘致を通してラリーを活かした地域活性化に取り組んでおり、目標としている世界ラリー選手権の来年度以降の開催を目指している。

## (2)小規模事業者に対する長期的な振興のあり方

### ①10年程度の期間を見据えて

高度経済成長を経て、働き方、暮らし方が大きく変化した。西三河、長野、岐阜、豊橋（東三河）をつなぐ交通の要衝であり、山間地の農林業を中心とした観光交流・都市交流を目指す稲武地区でも、著しい過疎化が進み、存続すら危うい集落もある。地域産業の衰退は、雇用の場を失うとともに、子育て世代のさらなる流出を招き地域社会を維持することが困難になる。同時に学校や医療など社会資本も失うことになる。また、豊田市、岡崎市を流れる矢作川の上流にあたるこの地域が荒廃すると洪水や土砂崩れなどの災害発生の原因になりかねない。更に、最近台風や大雨等の自然災害のリスク拡大や、今年コロナ禍で飲食サービス業や宿泊業を中心に大きな影響を受けたように、感染症のリスクも大きくなっている。

地域の総合的経済団体及び小規模事業者支援機関である本会は、小規模事業者の中長期的な振興のあり方として、交通の要衝としての観光交流・都市交流資源を活用する小規模事業者が、人口減少等前例のない変化に立ち向かいながら稲武地区で経営を持続的に行うためのビジネスモデルの

構築を全面的にサポートしていく必要がある。また、自然災害や感染症に対する危機管理が注目される中、商工会としても事業所に対し事業継続計画（BCP）の策定を支援していくことも重要である。

特に、地域の人口減少を止めることは難しいが、IUターン者を中心とした起業の支援や、二拠点居住等の関係人口の増加、更には観光、イベント、地域資源による来訪人口の増加を目指している。これらの関係人口や来訪人口の増加を商業人口の増加につなげるためにも、道の駅を活用した小規模事業者の商品開発支援は重要なものとなる。

## ②豊田市総合計画との連動性・整合性

豊田市は、2040年に42万人の将来人口と30%を越す高齢化率を想定し、「つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた」を目指して第8次総合計画（2017年～2024年）を策定した。3つの重点施策として「(1) 超高齢社会への適応」、「(2) 産業の強靱化」、「(3) 暮らしてよし・訪れてよしの魅力創出」を掲げている。その中でも、「(3) 暮らしてよし・訪れてよしの魅力創出」で施策の柱に地域資源を支える基盤の拡充として、まちの玄関口の機能向上がうたわれている。地域核と位置付けられている稲武地区は「豊田市の北の玄関口」であり、地域の拠点施設である「道の駅どんぐりの里いなぶ」の再整備事業が上がっている。

稲武地区でも、豊田市総合計画と連携した「稲武まちづくり構想」を策定し、重点道の駅に選ばれた「道の駅どんぐりの里いなぶ」を活用した事業推進がはかられている。

商工会としても、地域特性を尊重した事業推進を目指しており、地域資源を活用した観光交流促進や都市との交流促進は重点テーマである。

### <第8次豊田市総合計画施策体系と商工会の取組み>

重点施策	(2)産業の強靱化 「暮らしと活力を支える強固な経済基盤のあるまちの実現」 施策の柱① 次代の産業拠点としての機能の高度化 施策の柱② 多様な地域資源を生かした産業の振興 施策の柱③ 働く機会の多様化と産業を支える人材の確保 (3) 暮らしてよし・訪れてよしの魅力創出 「定住・交流人口を引き付ける魅力あるまちの実現」 施策の柱① 豊田ならではの暮らしの豊かさを生かした定住の促進 施策の柱② 世界に発信するまちぐるみの観光・交流の取組の推進 施策の柱③ まちの魅力の共有と発信		
基本施策	V産業・観光・交流 「多様な資源が生かされ、未来に挑戦する活力のあるまちの実現」		
小分野	施策名	施策の柱	商工会 関与度 合
4 商業・サービス 業	(2) 地域特性に応じた商業環境の整備	①地域コミュニティを担う商業機能の強化	○
		②満足感ある生活ができる商業環境の整備	○
5	(2) 地域資源を生かしたまち	①地域資源の発掘と磨き上げの促進	○

観光・交流	づくりの推進	②地域資源を支える基盤の拡充	○
	(3) 都市と山村が強みを生かし支え合う交流の促進	①都市と山村の資源とニーズのコーディネート推進	○
		②山村地域における生業創出の推進	○

[市町村との連携事業]

- ①創業支援等事業計画に基づく、ワンストップ相談窓口の設置や創業サポート連絡会の運営等。
  - ②「おいでん！とよたの特産品展」等の展示会を通じた販路拡大事業
- 他

③商工会としての役割

商工会としては、多くの小規模事業者が抱える販路開拓という課題解決に向けて、最も身近な相談相手として親身になって寄り添い支えるものであり、地域経済動向や需要動向調査を実施分析した有益な経営情報の提供、経営分析や事業計画策定支援とその後のフォローアップ、展示会や商談会を通じた新たな需要開拓支援、中心市街地活性化等の地域経済活性化事業の実施などを通じて持続可能な支援を実施する。更に、昨今の自然災害の多発や感染症の流行の状況を見ると、早急な事業継続計画（BCP）の必要性を痛感しており、計画策定のサポートを推進していく。

また、商工会では創業支援や事業承継等、小規模事業者の創出と継続という地域経済の基盤強化に対しても、豊田市をはじめ他の支援機関等と連携して支援することで小規模事業者の維持拡大に努めるものであり、当地区に、元気な小規模事業者が多数存在して、地域コミュニティ等、質の高い地域社会が形成されることを目指している。

(3)経営発達支援事業の目標

①本会管内の小規模事業者の状況

先にも述べたように、稲武地区の特徴は下記のようにまとめられる。

1. 豊かな自然資源を持つ 地域であるが、社会構造の変化に伴い過疎化が進んだ。
2. 高齢化少子化が進み、ひとりがひとりを支える社会状況である。このまま進行すれば、社会基盤の維持が危うい。
3. 豊田市や岡崎市など都市を抱える矢作川上流にあたるため、稲武地区の森林や田畑の荒廃は、洪水や土砂崩れなど下流に住む人々の生命・財産を脅かす懸念がある。
4. 稲武地区は歴史的な交通の要衝であり、現在は都市や高速のインターからアクセスも良く、立ち寄り客は多い。また、将来的には、リニア中央新幹線の駅が近隣の中津川市にできることもあり、来訪者（観光客）を誘致する準備に取り組む必要がある。
5. 稲武町時代の若者の雇用の確保という施策が豊田市に合併しても継続しており、道の駅が地域創生を核にした雇用、起業、特産品販売において重要な役目を果たしている。
6. 稲武地域の住民は、人口減少に対して危機感を感じていることもあり移住者の受入れや業種転換などの変化を受け入れる心境がある。
7. 道の駅周辺の新規参入飲食店や遊休農地を活用した体験農園など、起業しやすい環境は整っている。一方で人口が少ないため雇用を確保することに課題がある。

稲武地域の課題を打破しようと主体的に取り組んでいる組織もある。

1. 企業による稲武の定住促進

稲武に本社を置くトヨタケ工業の社員は約100人。10年後には、半数が60歳以上になり、従業員の若返りを図るため中途採用の継続に加え、新卒採用を10年ぶりに再開した。稲武地区は山間部で少子高齢化が深刻であり、地元での新卒採用は難しい状況であり、働きやすさや山間

部の魅力を伝えることで、地区外から若い人材を呼び込むため「オープンいなぶ」というプロジェクトをスタート。平日週3回は事業所で働き、土日は同地区でトレッキング、マウンテンバイク等の山岳ツアーガイド業をするなどして、残りの平日は休むといった就労スタイルを認める方針。違う職場での経験を製品開発の企画業務などに活かしてもらい狙いもあり、安定した収入を得ながら、スローライフを満喫できる、そんな働き方革命を目指している。

## 2. 観光資源の開発・PR

不要になった雛人形を活用した「いなぶ旧暦のひな祭り」は、3,921人（令和元年度）の集客がある。他にも雪で作った灯籠を町中に展示する「雪み街道いなぶ」、もみじまつり、氷爆など、稲武の住民が「私にできること」を考えて観光目玉を作っている。今後は収益につながる体験観光等のビジネスモデルや特産品の開発が期待される。

## ②稲武地区の経営目標

稲武地区の経営発達支援の大きなテーマは「人口減少社会に立ち向かう」と「観光交流・都市交流資源の活用」である。

稲武商工会では、経営目標達成に向けて以下により取り組む。

### 1. 買物支援や稲武産ギフトの通信販売を通して、人口減少と高齢化に立ち向かう小規模事業者の販路開拓の支援を行う。

稲武地区は人口2,205人（2020年4月）、高齢化率も40%を超えており、交通の便が悪く、車がないと買物にも不自由する。しかし、稲武周辺地域を含めた広域な商圈を有しており、規模は小さいが最寄品から買回り品まで多様な店舗が存在する。

また、商店主の高齢化や後継者不足も大きな問題であり、配達ができなくなる店舗も現れており、この問題への対応に小規模事業者の生き残りがかかっている。

### 2. 観光交流・都市交流資源を活用し、小規模事業者の創業・事業承継そして販路開拓の支援を行う。

（重点道の駅に認定された「道の駅どんぐりの里いなぶ」、リニア新幹線の岐阜新駅、国道153号伊勢神改良等のビッグプロジェクトの活用）

道の駅「どんぐりの里いなぶ」が国土交通省の選ぶ重点道の駅に選ばれ、いよいよ令和4年7月にはリニューアルオープンを予定している。この道の駅は稲武地域の交流拠点であり、道の駅「どんぐりの里いなぶ」を中心にした地域振興策の推進をはかる。

この2点の目標達成に向けて、

- ・巡回指導、窓口指導、セミナーを通して、小規模事業者の経営分析・経営計画の策定等の伴走型支援
- ・商品に対する需要動向や地域の経済動向に関する情報の収集、整理、分析提供
- ・ソーシャルメディアやプレスリリース等の広報手段、商談会や展示会等のマーケティングを活用した伴走型支援
- ・小規模事業者への伴走型支援を行うため、経営指導員等職員の支援力等の資質向上
- ・目標達成のため、各種機関との連携強化等に努める



経営発達支援事業の内容及び実施期間

**2. 経営発達支援事業の実施期間、目標の達成方針**

(1) 経営発達支援事業の実施期間 (令和3年4月1日 ~ 令和8年3月31日)

(2) 目標達成に向けた方針

目標達成のために以下の方針を掲げ、小規模事業者の支援を行う。

目標①「買物支援や稲武産ギフトの通信販売を通して、人口減少と高齢化に立ち向かう小規模事業者の販路開拓の支援を行う。」

【方針1】高齢化を見据えた買い物支援などソーシャルビジネスを通じた小規模事業者の持続的支援

【方針2】稲武産ギフトを創り稲武地区の住民、稲武地区出身者、豊田市内の企業への販路開拓を通じた小規模事業者の持続的支援

目標②「観光交流・都市交流資源を活用し、小規模事業者の創業・事業承継そして販路開拓の支援を行う。」

【方針3】交流拠点である道の駅「どんぐりの里いなぶ」周辺での創業や事業承継を目指すIUターン者や業種転換等を目指す小規模事業者の持続的支援

【方針4】交流拠点である道の駅「どんぐりの里いなぶ」及び周辺で行われる地域活性化事業を通して、地域産品の活用と販路開拓支援

【方針5】地域産品の活用と展示会参加等の販路開拓支援を通じた小規模事業者の持続的支援

【方針6】商工会館等の遊休施設を活用して、リモートワーク等の交流拠点整備を推進し、二拠点居住者等の関係人口を増やすことによる小規模事業者の持続的支援

**3-1. 地域の経済動向調査に関すること**

(1) 現状と課題

平成28年には全会員（有効回答率52.7%）を対象に地域経済動向並びに事業承継にかかる事態調査を実施したが、その後は調査が行われておらず、地域情勢の変化もあり、調査データは活用されていない。そこで、調査データを指導に活用するために、定期的にテーマを絞った調査を実施し巡回指導等による小規模事業者への情報提供を行う。

(2) 目標

項目	単位	実績	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
① 地域経済動向調査回数	回	-	2	2	2	2	2
② 地域経済動向調査の公表回数	回	-	2	2	2	2	2

### (3)事業内容

地域内の企業の景気動向など地域の経済動向に関する情報を総合的に収集、整理、分析する。  
また、豊田市・豊田信用金庫・豊田市内の商工会・豊田商工会議所とも情報を共有し、市内全域の経済動向を提供できる体制を確立する。

また、国が提供するビッグデータ「地域経済分析システム（RESAS）」を活用した分析を行い、小規模事業者へ情報提供を行う。

#### ① 地域経済動向調査の実施【拡充】

地域の事業者の経営状況・経営課題・支援機関への接点/評価等を明らかにし、全国等との比較により、地域の特性を明確にすることができる基礎となるデータを収集する。

[調査内容]

対象者：会員事業者(法人・個人含む)141社の内、調査テーマごとに業種を絞り、40社程度に調査を実施

調査構成：景況感(短期・中期)、経営課題、雇用、設備投資、支援機関との接点・評価、事業者属性 他

調査方法：調査票を郵送し返信用封筒で回収する。

分析手法：経営指導員が外部専門家と連携し分析する。

#### ② 他機関と連携し、市内及び全国の経済動向調査【拡充】

豊田市、豊田信用金庫、市内の商工会（藤岡商工会、小原商工会、足助商工会、下山商工会、旭商工会）、豊田商工会議所と情報を共有しながら、豊田市内の経済動向調査のデータを収集する。

また、ビッグデータ「地域経済分析システム（RESAS）」の情報活用をはかる。

- 【分析手法】
- ・「地域経済循環マップ・生産分析」 ⇒何で稼いでいるか等を分析
  - ・「まちづくりマップ・From-to分析」 ⇒人の動き等を分析
  - ・「産業構造マップ」 ⇒産業の現状等を分析

### (4)成果の活用

「地域経済動向調査の情報提供」【拡充】

収集した稲武地区内及び豊田市内の地域経済動向調査に関する情報は、経営指導員が地区内小規模事業者126社に年1回以上の巡回指導を実施し、その度に提供する。

更に、各種案内発送に併せて地域経済動向調査（概要版）を作成し提供する。

また、ホームページにも掲載することにより、地区内小規模事業者にタイムリーに情報提供する。

## 3-2. 需要動向調査に関すること

### (1)現状と課題

これまで、需要動向調査は事業計画策定に利用する程度で、小規模事業者への提供は限定的であった。しかし、小規模事業者の経営状況の分析、事業計画策定、事業計画策定後支援と常に必要な情報であり、常に情報提供できる体制を整える。

## (2)目標

項目	単位	実績	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
①試食、アンケート調査対象事業者数	社	8	10	10	10	10	10
②新商品開発のバイヤー調査対象事業者数	社	4	5	5	5	5	5

## (3)事業内容

小規模事業者が気付いていないマーケット・商品・役務の需要動向に関する情報を提供する。特に、ターゲットとなる世代、性別、市場を明確にし、小規模事業者の経営状況の分析支援、事業計画策定支援、事業計画策定後支援、販路開拓支援に活用できる情報を提供する。

### (事業内容)

#### ① 稲武地域の需要動向調査【拡充】

稲武地域の交流拠点である道の駅「どんぐりの里いなぶ」は、年間40万人を超えるレジ通過者のある核施設である。この施設を訪れる稲武地区来訪者に対してインタビュー形式でアンケート調査を実施する。(年1回)

[調査項目] 地域、年齢、性別、家族構成、目的、重視するポイント、予算、試食した商品について(味、甘さ、硬さ、色、大きさ、価格、見た目、パッケージ等) 他

[活用方法] この調査と道の駅「どんぐりの里いなぶ」の商品別売上データを活用し、稲武地区来訪者の市場動向やニーズ、商品の競合状況、新商品開発や新サービスの提供に役立つ情報を収集する。

#### ② 豊田市の需要動向調査【新規】

豊田市内にあるトヨタ生協等の有力店は地元商品の取り扱い拡大を進めている。この市場動向や市場規模を的確につかむため、トヨタ生協等のバイヤーとの情報交換会を実施する。(年1回)

[調査項目] 消費者情報：地域、年齢、性別、何をどれぐらいなぜ購入したか 他

自店情報：今後の商品構成、仕入したい商品、ギフト商品(中元・歳暮)の動向、取引条件(掛け率、物流、問屋 他) 他

新商品の評価：味、色、大きさ、価格、見た目、パッケージ等

[活用方法] この調査と「愛知県消費者購買動向調査」から、豊田市内の消費者についての商品毎の買物場所、店舗、その理由を抽出し、顧客の市場動向やニーズ、バイヤーの意見等、小規模事業者の販路拡大、新商品開発や新サービスの提供に役立つ情報を収集する。

## (4)成果の活用

### 「需要動向の提供」【拡充】

各事業者が開発した新商品の評価や、今後の販路拡大や新商品開発に活かせる情報として、稲武地区来訪者やバイヤーから得た需要動向を提供し、小売業や飲食業には、販路拡大や新サービスの提供に活かせる情報として、稲武地区来訪者や全国的な売れ筋商品情報を提供する等、小規模事業者の業種に合わせて、調査データから個々の事業者に関係ある情報を抽出し、経営指導員の巡回指導や窓口相談の際にタブレット等の携帯端末を活用して情報提供を行う。

また、情報提供のみに終わらせず、市場開拓の可能性、事業計画の変更の検討など、実際に事業

活動へ反映させるように経営指導員がアドバイスする。これにより、環境変化への対応能力の必要性を事業者に気づかせ、実行させていくことに結び付けていく。

#### 4. 経営状況の分析に関すること

##### (1) 現状と課題

これまでは、直面する問題への対応のために経営分析を行ってきたが、経営状況の分析の意義の理解が進んでいない。今後は、経営分析の意義を丁寧に説明し、専門家と連携する等し、積極的に経営分析を行うよう働きかけを行う。

##### (2) 目標

項目	単位	実績	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
経営分析セミナー開催件数	回	—	1	1	1	1	1
経営状況の分析企業数	社	—	15	20	20	25	25

##### (3) 事業内容

小規模事業者からの依頼に基づいて記帳代行や所得税等の確定申告指導、事業を展開する上で必要な運転・設備資金用の融資斡旋を行ってきたが、そこまでの支援で終わってしまう事がほとんどである。小規模事業者の経営環境が年々厳しくなっている状況であり、積極的に経営状況の分析の意義を説明し、経営分析指導を行うことにより、自社の内部環境分析や事業計画策定に役立てていく。

(事業内容)

###### ① 経営分析の重要性の啓発

「巡回指導」【拡充】

経営指導員が巡回訪問する際にはタブレット等の携帯端末を持参し、中小企業基盤整備機構が提供する「経営自己診断システム」等を活用し、簡易な経営分析をし、経営分析の重要性を啓発する。

「経営分析セミナー」【拡充】

小規模事業者の経営分析に対する基礎的な知識と重要性を啓発するため、セミナーを開催する(年1回)。経営分析とは会社の「健康診断」であると位置づけ、経営分析を行うことで、経営危機を事前にチェック、回避できる「会社の健康診断」であることを認識してもらい、経営者からの需要を喚起していく。

###### ② 分析対象者の拡大【拡充】

セミナーを広く地域の小規模事業者案内し、地域全体の事業者へ経営分析の必要性を啓蒙していく。更に、セミナー参加者以外にも収益状況、財務状況を当会で把握している記帳機械化・記帳継続指導対象者、融資斡旋先事業者等に対して巡回、窓口相談時に、経営分析の重要性を説明し、分析対象者を積極的に掘り起していく。

###### ③ 経営分析の手法【拡充】

巡回指導・経営分析セミナー・記帳継続指導、融資斡旋の機会を通じて掘り起こした経営分析

対象者に対して、経営指導員が巡回指導や窓口指導として、ワークシートや経営分析用ソフトを活用して経営分析を行う。

[分析項目]

- ・財務分析：収益性、安全性、生産性、成長性の定量分析
- ・SWOT分析：強み、弱み、機会、脅威の定性分析
- ・その他：市場・顧客分析、競合分析の定性分析

[専門家の活用]

小規模事業者が保有している技術、ノウハウ、従業員等の経営資源等の専門的な分析が必要な場合は、愛知県商工会連合会、あいち産業振興機構（よろず支援拠点）、豊田信用金庫、中小機構のコーディネーター等と連携し、専門家派遣制度を積極的に活用することにより、経営指導員同行により指導する。

#### (4)分析結果の活用

##### ① 調査・分析結果の有効活用【拡充】

この事業で得られた調査・分析結果のデータは、新たにデータベース化し、全職員が小規模事業者の支援をするためデータの共有化をはかる。また、分析結果を小規模事業者にフィードバックし、事業計画策定に役立てる。

##### ② 調査・分析結果のメンテナンス【新規】

経営分析した小規模事業者に対して、巡回指導時に財務諸表の確認やヒアリングにより経営分析結果のデータ点検（メンテナンス）を行い（年1回）、常に最新の状況が確認できるよう伴走型支援を行う、これにより経営の見直しや新しい戦略の策定が可能となる。

### 5-1. 事業計画策定支援に関すること

#### (1)現状と課題

これまでは、直面する問題への対応のために事業計画策定を行ってきたが、まだまだ事業計画策定の意義や重要性の理解が進んでいない。今後は、経営状況の分析を行った事業者を中心に、事業計画策定の意義を丁寧に説明し、積極的に事業計画策定支援を行う。

#### (2)支援に対する考え方

1社でも多くの小規模事業者に、巡回指導やセミナーなどへの参加を通じて、事業計画書策定の必要性や有益性を理解して頂き、小規模事業者の現状の経営状況とこれからの企業としてのありべき姿について検討するとともに、あるべき姿の実現に向け、経営理念、経営ビジョンを整理したうえで、顧客のニーズと市場の動向、自社や自社が提供する商品・サービス・製品の強み、経営方針・目標と今後のプランを取りまとめた経営計画の策定を支援する。

また、策定した事業計画の実現のために持続化補助金の活用を目指す。それが、他社の刺激となり、経営分析セミナー参加事業者の50%の事業計画策定を目指す。

併せて、事業計画策定をした事業者のうち、更に経営革新計画の策定を目指す事業者の支援をし、経営革新計画策定につなげていく。

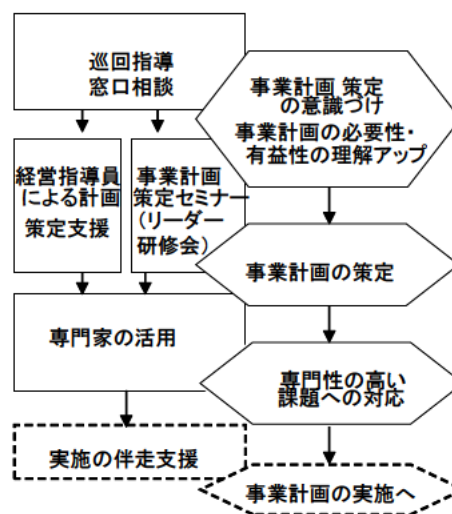
(2)目標

項目	単位	実績	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
事業計画策定事業者数	件	8	8	10	10	12	12
経営革新計画を活用した事業計画策定事業者数	社	0	1	1	2	2	2

(3)事業内容

① 巡回指導等による計画策定の動機付け【拡充】

巡回指導や窓口相談の際にはタブレット等の携帯端末を持参し、中小企業基盤整備機構提供の「経営計画つくるくん」を活用し、事業者に対して事業計画策定の意識づけをし、その「必要性」や「有益性」を理解して頂き、経営状況に合わせてリーダー研修会（セミナー）への参加や経営指導員による計画策定支援を提案していく。



② リーダー研修会（事業計画策定セミナー）開催による計画書策定支援【拡充】

地区内の小規模事業者のリーダーとなるべき40代の事業主を中心に5人程度の希望者を募り、月1回程度（年間4回程度）の研修会を開催し、計画書策定支援をする。

研修会では、参加者を取り巻く環境や経営資源の分析を基にワークシートを使って計画書策定をし、グループワークを通して計画書のブラッシュアップをはかる。

〔目的〕セミナー参加者同士が情報交換や刺激し合う事により、事業計画のブラッシュアップをはかり、計画策定の成功事例をつくる。また、成功事例をPRすることにより、地域の小規模事業者の事業計画策定に対する関心を高める事ができる。

③ 経営指導員による計画策定支援

事業計画策定に必要な検討事項(※)に基づいて、経営分析で入手したデータを活かし、事業計画書のストーリーを、事業者と意見交換しながら整理し、経営指導員が伴走して、顧客のニーズと市場の動向、自社や自社が提供する商品・サービス・製品の強み、経営方針・目標と今後のプランを取りまとめた計画策定を支援する。その上で、事業の遂行に支障となる実施上の課題について、課題の解決方法をアドバイスする。

④ 専門家の活用

③において作成した事業計画に専門性の高い経営課題があった場合には、愛知県商工会連合会、あいち産業振興機構（よろず支援拠点）、豊田信用金庫、中小機構のコーディネーター等と連携し、専門家派遣制度を積極的に活用することにより、経営指導員同行により、事業計画策定のための課題解決をはかる。

さらに、経営課題の内容や事業者の意向により、新規性のある取り組みには経営革新計画の申請を行うようにアドバイスを行い、経営革新計画を活用した事業計画策定支援を実施する。

※ 事業計画書策定において検討すべき事項

「事業への想い」「市場の機会/脅威」「自社の強み/弱み」「目標」「達成手段」「実施上の課題」等

## 5-2. 創業（第二創業含む）・事業継承の事業計画策定支援に関すること

### (1) 現状と課題

創業や事業承継に対する支援策ができて、まだまだ周知が不足しており、利用に結び付いていない。創業希望者のニーズに応じた支援を受けることができるよう、各機関の連携体制を密にし、積極的に創業や事業承継のための計画策定支援を実施する。

### (2) 支援に対する考え方

過疎化が進む稲武地区では、地域の活性化に向けて、交流拠点である道の駅「どんぐりの里いなぶ」周辺での創業や事業承継を目指すIUターン者や第二創業を目指す小規模事業者の持続的支援のため、ワンストップ創業支援窓口を設置し、必要に応じて関係機関や専門家を紹介するなど、事業計画策定に向けたきめ細やかな支援を行う。

更に、豊田市は創業支援等事業計画(※1)の認定を受けており、豊田市、各商工会・商工会議所、豊田信用金庫、日本政策金融公庫で豊田市創業サポート連絡会を設置し、情報の共有化（創業支援カルテ）と各機関の連携体制の整備と強化を図り、国・県の施策の活用を図る。

また、事業主の高齢化や事業後継者がいない等の理由から、今後の経営継続の見込めない事業者にも、「創業支援カルテ」への登録を積極的に促し、事業承継の計画策定支援を行う。

### (3) 目標

項目	単位	実績	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
創業に伴う事業計画策定支援事業者数	社	1	1	1	2	2	2
事業承継に伴う事業計画策定支援事業者数	社	0	2	3	3	3	3

### (4) 事業内容

#### ① 事業承継セミナー（経営者及び後継予定者が一緒に参加）開催による計画書策定支援【新規】

地区内で今後事業承継が予定されている事業主と後継予定者に対して、チラシ等によりセミナーへの参加者を募る。セミナーでは、事業承継に向けた事業主と後継予定者の共通認識を高めることを目指しており、事業承継に必要な知識を修得し事業承継計画策定を支援する。

#### ② 事業承継にかかる実態把握【拡充】

事業主の高齢化により、事業継続が困難な事業所が増えている。商店街等に廃業店舗が増える事は、地域の活力を大きく損なう事につながる。そこで、地域内の商店街及び道の役「どんぐりの里いなぶ」周辺の各事業主に対して事業継承に関するアンケートを実施し、事業継承の計画づくりに活用する。

[調査項目] 後継者の有無、店舗借上げの可能性及び条件 他

### ③ ワンストップ創業支援窓口による事業計画策定支援【拡充】

商工会にワンストップ創業支援窓口を設置し、経営指導員が創業予定者と意見交換しながら、顧客のニーズと市場の動向、自社や自社が提供する商品・サービス・製品の強み、経営方針・目標と今後のプランを整理し、創業に伴う事業計画策定支援を行う。

また、事業主の高齢化等で事業継続が困難な小規模事業者の内、アンケート結果で、後継者がなく、店舗の借上げが可能な事業主に対して、事業継承に伴う計画策定を働きかけ、その作成支援を行う。この事業継承に伴う計画策定に関しては、立地条件や地域の活性化計画等を考慮し、古民家再生手法(※2)を活用し、経営指導員が事業主と意見交換しながら、事業継承の計画策定支援を行う。

その上で、創業や事業継承の遂行に支障となる実施上の課題について、課題の解決方法をアドバイスする。

### ④ 専門家の活用

③において作成した創業や事業継承に伴う事業計画に専門性の高い経営課題があった場合には、愛知県商工会連合会、あいち産業振興機構（よろず支援拠点）、豊田信用金庫、中小機構のコーディネーター等と連携し、専門家派遣制度を積極的に活用することにより、経営指導員同行により、創業に伴う事業計画策定のための課題解決をはかる。

### ⑤ 創業希望相談者や事業継承対象者の「創業支援カルテ」の作成【拡充】

創業希望相談者や事業継承対象者の相談内容に対しては、「創業支援カルテ」を作成する。この「創業支援カルテ」には、創業塾の受講状況や各創業支援窓口での相談内容や支援状況が記載され、その支援内容や機関の情報を豊田市、各商工会・商工会議所、豊田信用金庫、日本政策金融公庫で共有することにより、創業者支援や事業承継のマッチングに活用する。

#### ※1 創業支援等事業計画

平成26年1月20日に施行された「産業競争力強化法」では、地域の創業を促進させるため、市区町村が民間の創業支援事業者(地域金融機関、NPO法人、商工会議所・商工会等)と連携して、ワンストップ相談窓口の設置、創業セミナーの開催、コワーキング事業等の創業支援を実施する「創業支援等事業計画」について、国が認定することとしている。

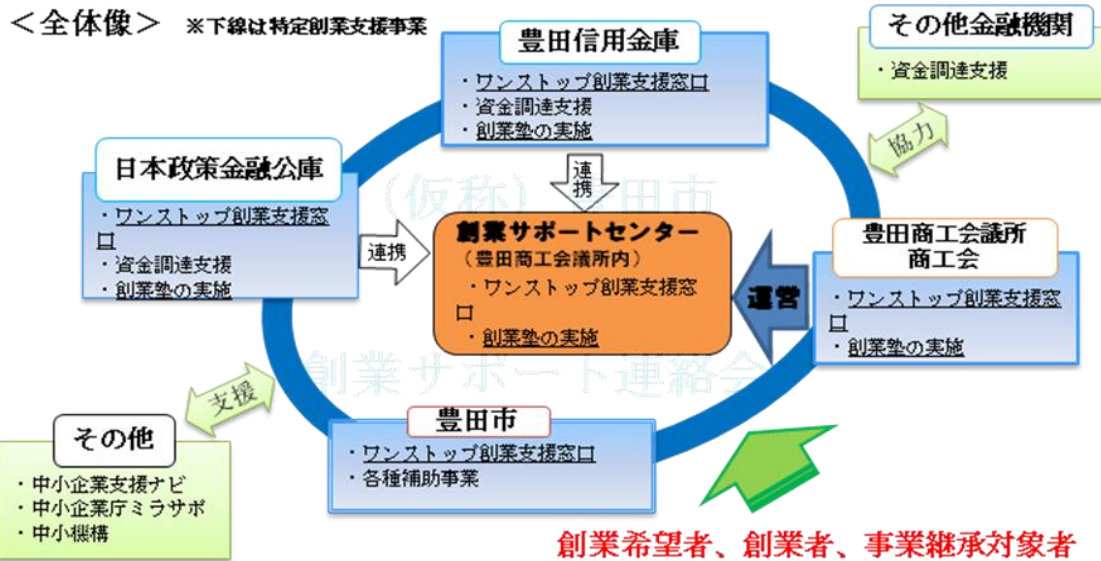
#### ※2 古民家再生手法

従来古民家を資料館や市民スペースとして活用することが多かったが、産業創出の観点から、民間の地域再生請負企業が一括借上げ、リノベーションし、ホテル、レストラン、カフェ他の事業を予定している事業者にサブリースする。

豊田市創業サポート連絡会

市区町村	豊田市
創業支援事業者	豊田商工会議所・市内6商工会、 豊田信用金庫、日本政策金融公庫岡崎支店





## 6-1. 事業計画策定後の実施支援に関すること

### (1) 現状と課題

これまで、事業計画策定を行った小規模事業者へのフォローアップが遅くなるが多かった。3ヶ月以内にフォローアップすることを目標としていたが、間隔が空きすぎてタイミングを逃すこともある。早い時期から頻繁にフォローアップし、事業計画策定を行った小規模事業者の進捗状況や課題を把握し、事業計画実行の支援を行う。

### (2) 支援に対する考え方

事業計画を策定した全ての事業者を対象に、策定した経営計画が順調に進むよう早いタイミングから経営指導員が伴走型支援を行う。計画と実態に差異が生じた場合には経営指導員が適切な支援を行うが、必要に応じて愛知県商工会連合会、あいち産業振興機構、豊田信用金庫、中小機構のコーディネーター等と連携し丁寧にサポートする。

### (3) 目標

項目	単位	実績	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
フォローアップ対象事業者数	件	8	12	16	20	24	28
フォローアップの頻度(延回数)	件	24	35	45	60	70	80
売上増加事業者数	件	3	5	7	9	11	13
利益率5%以上増加事業者数 件数	件	2	3	4	5	6	7

※ フォローアップ対象事業者数には、創業・事業承継の対象事業者と過年度の事業計画策定事業者も含む。

#### (4)事業内容

##### ① 経営指導員によるフォローアップ

経営指導員は、計画書策定が完了したら、3か月に1度程度巡回指導により進捗状況を把握して、カルテに記録する。また、計画策定後、1ヶ月、2ヶ月のタイミングで、SNSやEメールにより事業の進捗を促す声掛けを実施する。

進捗が芳しくない場合は、新たな支障が生じているとの推定のもと、直ちに巡回指導を行い、課題を把握するとともに、その解消に向けた指導・助言を行う。経営指導員で解消が困難な課題である場合、愛知県商工会連合会、あいち産業振興機構、豊田信用金庫、中小機構のコーディネーター等の窓口相談、または専門家派遣を実施する。

##### ② 窓口相談、専門家派遣による

支援依頼を受けた専門家は、相談カルテ、策定された事業計画書に基づいて、対象となる小規模事業者の意向により手厚く支援する。

##### ③資金面でのフォローアップ

事業計画を元に、新たな需要を獲得するために事業を再構築していくことで事業資金必要である。そのために、日本政策金融公庫や豊田信用金庫と連携して、小規模事業者が持続的に事業を発展させていくために低利な資金を斡旋する。

(日本政策金融公庫 岡崎支店)

- ・小規模事業者経営発達支援融資制度
- ・小規模事業者経営改善資金融資制度
- 他

(豊田信用金庫 稲武支店)

- ・小規模企業等振興資金（県制度融資）
- ・豊田市商工業事業資金（豊田市制度）
- 他

### 6-2. 創業（第二創業含む）・事業承継の事業計画策定後の実施支援に関すること

#### (1)現状と課題

これまでは、事業計画策定を行った創業や事業承継した小規模事業者へのフォローアップが遅くなるが多かった。3ヶ月以内にフォローアップすることを目標としていたが、間隔が空きすぎてタイミングを逃すこともある。早い時期から頻繁にフォローアップし、事業計画策定を行った小規模事業者の進捗状況や課題を把握し、事業計画実行の支援を行う。

#### (2)支援に対する考え方

豊田市、各商工会・商工会議所、豊田信用金庫、日本政策金融公庫の各連携機関に設置したワンストップ創業支援窓口において、地域資源の発掘から商品化まで、創業の段階に応じたきめ細やかな支援を行い、必要に応じて関係機関や専門家を紹介する。

また、豊田市、各商工会・商工会議所、豊田信用金庫、日本政策金融公庫で豊田市創業サポート連絡会を設置し、情報の共有化（創業支援カルテ）と各機関の連携体制の整備と強化を図る。

これらの取り組みにより、創業における事業計画策定後の伴走型の支援を実施する。

また、事業主の高齢化や事業後継者がいない等の理由から、今後の経営継続の見込めない事業者にも、「豊田市創業サポート連絡会」と「ワンストップ創業支援窓口」に登録する事により、IU

ターン等の事業承継希望者をマッチングさせる事業継承支援を行う。

(3) 目標

項目	単位	実績	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
創業件数	件	1	1	1	2	2	2
事業承継成立件数	件	0	0	1	1	1	1

(4) 事業内容

① ワンストップ創業支援窓口による事業計画策定後の実施支援

豊田市、各商工会・商工会議所、豊田信用金庫、日本政策金融公庫に設置したワンストップ相談窓口において創業や事業承継の事業計画書に基づいた課題解決のための支援を実施

② ①における専門家派遣、伴走型支援の実施

(ア) 専門家派遣

- ・事業計画書の進捗状況に応じた課題解決のため専門性が必要な場合において中小企業診断士、税理士、社会保険労務士、行政書士、司法書士等の専門家を派遣し、相談者に紹介し支援する。

(イ) 伴走型支援

- ・相談者と共に事業計画書の進捗状況に応じて、創業までの課題解決、目標達成を支援する。

③ 創業希望相談者等の「創業支援カルテ」の作成

豊田市、各商工会・商工会議所、豊田信用金庫、日本政策金融公庫にて対応した創業希望相談者や事業承継対象者の相談内容に対しては、「創業支援カルテ」を作成し、情報把握を実施し、連携する。

豊田市創業サポート連絡会の支援の特徴

特徴

豊田市では、ビジネスモデルの構築、資金調達等創業に必要な要素に応じて、関係機関の強みを生かし適切な創業支援の提供を行う。

1. ターゲット市場・ビジネスモデルの見つけ方	2. デルの構築	3. 売れる商品・サービスの作り	4. 適正な価格の設定と効果的な販路方法について	5. 資金調達・資金計画	6. 事業計画書の作成	7. 許認可	8. 創業後のフォロー
豊田商工会議所 市内8商工会 豊田信用金庫 日本政策金融公庫 中小機構 中小企業ミラサポ 中小企業支援ナビ	豊田商工会議所 市内8商工会 豊田信用金庫 日本政策金融公庫 中小機構 中小企業ミラサポ 中小企業支援ナビ	豊田商工会議所 市内8商工会 豊田信用金庫 中小機構 中小企業ミラサポ 中小企業支援ナビ	豊田商工会議所 市内8商工会 豊田市 中小機構 中小企業ミラサポ 中小企業支援ナビ	豊田商工会議所 市内8商工会 豊田信用金庫 日本政策金融公庫 豊田市	豊田商工会議所 市内8商工会 豊田信用金庫 日本政策金融公庫 中小機構 中小企業ミラサポ 中小企業支援ナビ	豊田商工会議所 市内8商工会 豊田市 法律事務所 司法書士事務所	豊田商工会議所 市内8商工会 豊田信用金庫 日本政策金融公庫 中小機構 中小企業ミラサポ 中小企業支援ナビ

## 7. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること

### (1)現状と課題

小規模事業者の新商品開発や販路開拓のための展示会や商談会等の事業を実施してきたが、事前・事後のフォローが不十分であった。参加事業者が、目標をもって事業に参加することが重要であり、その結果を改善に活かすことができる。そのためにも、事前・事後のフォローを丁寧に行い、明確な目標設定作成するよう伴走型支援を実施する。

### (2)支援に対する考え方

稲武地区来訪者を対象とした道の駅へのアンテナショップ開設、稲武地区外への販路開拓を目指して豊田市、市内商工会・商工会議所が連携して開催する展示会、稲武地区住民を対象として販路拡大を目指す配達便事業、稲武地区外へのギフト需要の獲得を目指すギフト受注事業等、それぞれ違った切り口の事業を通して小規模事業者の新商品開発や販路開拓のための支援を行うとともに、陳列や接客をはじめとしたきめ細かな伴走型支援を行う。

### (3)事業内容

① 道の駅「どんぐりの里いなぶ」内へアンテナショップの開設【新規】（BtoC）

支援対象	新規顧客の開拓を目指す商業・サービス業者
内容	<p>【アンテナショップ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各店で開発した商品を、ギフト商品や体験（リモート含む）をセットにした商品として販売する。</li> <li>稲武産商品のPRイベントの実施。（試食会やアンケート調査の実施）</li> <li>新商品発売時のキャンペーン事業を請負う。</li> <li>稲武応援団としての顧客情報を収集し、イベント実施やギフト発売時に活用する。</li> </ul> <p>【ネット通販事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既購入者のリピートに対応するため、ネット販売も視野に入れた活動を行う。</li> </ul>
効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>稲武産ギフトや体験（リモート含む）を各種の場面で利用するきっかけとなり、販路拡大につながる。</li> <li>稲武応援団としての顧客情報を利用して、情報発信する事ができ稲武を応援いただけるよう働きかける。</li> <li>新商品等の需要動向をそれぞれの事業者に提供する事ができ、商品の改良等に活用できる。</li> </ul>
これまでの取組み	令和4年7月スタート（予定）

（目標）

項目	単位	実績	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
参加事業所数	社	-	-	7	8	9	10
受注件数	件	-	-	500	1,000	1,500	2,000

② おいでん！とよたの特産品展【拡充】（B to C）

支援対象	新規顧客の開拓を目指す特産品取扱業者
内 容	豊田市、市内の商工会、豊田商工会議所が「とよたの特産品展実行委員会」組織して、小規模事業者の商品を紹介・販売する展示会を開催する
効 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊田市内や名古屋市内で展示会を実施することにより、小規模事業者が消費者の声を直に聞き、自社商品の改善や新商品の開発に活かす事ができる。</li> <li>・目標の売上を目指すため、商品の展示やアピール手法を研究し、自店の販売に活かす事ができる。</li> <li>・展示会への出張販売することにより、新たな顧客獲得につながる。</li> </ul>
これまでの取組み	<p>時期：令和2年1月25日(土)～1月26日(日)                  場所：名古屋市金山総合駅イベント広場                  出展事業者：19事業者                  売上額：2,184,664円</p> 


(目標)

項目	単位	実績	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
出展事業所数	社	3	3	3	4	4	4
1社当り売上額	万円	11	12	14	15	15	15

③ いなぶのお買物配達便【拡充】（BtoC）

支援対象	新規顧客の開拓を目指す商業・サービス業者
内 容	<p>高齢者支援システム（稲武システム）の推進 （主な事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宅配事業（注文いただいた商品の配達、集金）</li> <li>・ 配達事業（加盟店で買い物していただいた商品のうち、かさばるもの、重いものを配達）</li> <li>・ 御用聞き（事務局から、定期的に御用聞きの電話をし、発注を促す。安否確認をかねる。）</li> <li>・ 常備品箱設置事業（薬売りのように、箱に常備品を入れ定期的に補充する。非常時の食糧をかねる。補充時に安否確認をかねる。）</li> </ul>

効果	配事業を中心とする高齢者支援システムを立ち上げることにより、今まで地元商店を利用したことのない人を中心に、新たな顧客の開拓を行う事ができる。また、事業の浸透とともに、ギフトチラシを配布し、高齢者以外の顧客開拓や、地元産品のお中元・お歳暮等、新たな市場開拓につながる。
----	---

これまでの取組み	<p>平成 25 年 9 月 2 日スタート 令和元年度（利用件数・利用金額） 3 月（件数）38 件（前年比：165.2%）（金額）102,550 円（前年比：145.6%）</p> 
----------	---

（目標）

項目	単位	実績	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
登録利用者数	人	65	70	75	80	85	90
月利用件数	件	79	85	90	100	130	150

④ いなぶのギフト受注事業【拡充】（BtoC）

支援対象	新規顧客の開拓を目指す商業・サービス業者
内 容	<p>【パンフレット作成事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各店で開発したギフト商品を稲武のギフトとしてまとめたパンフレットを作成する。</li> <li>ギフト商品のない事業所は、この事業をきっかけにギフト商品の開発を行う。</li> <li>作成したパンフレットは、自治区長を通して各戸に配布し、稲武産のギフトを利用していただけるような活動を行う。</li> <li>各自治区長を通し稲武出身者にパンフレットを送るための情報をいただけるよう働きかける。</li> <li>稲武産ギフト受注事業のパンフレットを、豊田市内の事業所へ送付できるよう働きかける。</li> </ul> <p>【ネット通販事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パンフレットによるギフト受注状況に応じて、ネット販売も視野に入れた活動を行う。</li> </ul>

効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>稲武産ギフトをつくり、お中元・お歳暮だけでなく、各種の場面で稲武産のギフトを利用するきっかけとなり、販路拡大につながる。</li> <li>稲武出身者等の稲武ファンも多くいるはずである。そんな稲武ファンを発掘し、稲武産ギフトで稲武を応援いただけるよう働きかける。</li> <li>自社製品はもっているが、ギフト商品を持っていない事業所もある。これを機会にギフト商品を開発し販売チャンネルを増やすことができる。</li> </ul>
----	---

これまでの取組み	<p>平成 30 年度スタート</p> <p>令和元年度（利用件数・利用金額）</p> <p>（件数）73件（前年比：137.7%）（金額）361,800円（前年比：156.6%）</p>
----------	--

（目標）

項目	単位	実績	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
参加事業所数	社	-	6	7	8	9	10
受注件数	件	-	100	500	1,000	1,500	2,000

**8. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること**

**(1)現状と課題**

これまで、経営発達支援計画検討会で事業の評価や見直しを実施してきたが、その結果に対する周知が足りなかった。今後も経営発達支援計画検討会で事業の評価や見直しはこれまで同様に実施し、小規模事業者への周知方法の見直しに取組む。

**(2)事業内容**

毎年度、本計画に記載の事業の実施状況及び成果について、以下の方法により評価・検証を行う。

① 豊田市、稲武商工会、いなぶ観光協会、(株)どんぐりの里いなぶ、稲武地域会議、稲武地区区長会他各種団体が構成し、地域経済活性化の方向性やまちづくり構想の策定を目指す「稲武地域まちづくり協議会」から評価や意見をいただき、「経営発達支援計画検討会」に提言する。

② 専門家、行政、金融機関等の有識者と担当副会長を中心に「経営発達支援計画検討会」を組織し、事業の実施状況、成果の評価・見直し案の提示を行う。(年1回)

**【経営発達支援計画検討会委員】**

愛知学院大学 ビジネス科学研究所 上席研究員

豊田市産業部商業観光課 課長

豊田信用金庫稲武支店 支店長

(株)どんぐりの里いなぶ 代表取締役

稲武商工会 副会長

稲武商工会 法定経営指導員

③ 正副会長会議及び理事会において、評価・見直しの方針を決定する。

④ 事業の成果・評価・見直しの結果は総会に報告するとともに、商工会玄関に掲示し、小規模事業者等の閲覧と質問に供する。

⑤ 事業の実施にあたっては、常に、経営指導員等でP D C Aサイクルを意識し、評価・見直しにあたっては、満足度調査及び必要性調査(※)を行う。

1. Plan (計画)

稲武商工会にて、今までの実績や将来を予測して、経営発達支援計画書を作成する。

2. Do (実施・実行)

計画書に基づいて、稲武商工会で経営発達支援業務を実施する。

3. Check (点検・評価)

稲武商工会の地区内小規模事業者への満足度調査及び必要性調査(※)を行う。

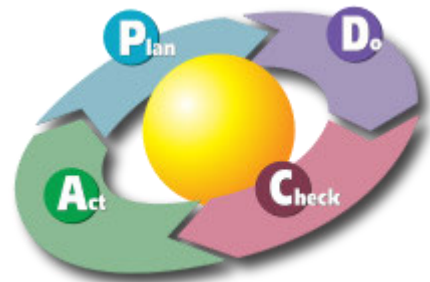
その結果に基づいて、経営指導員等が中心となって点検や反省を行う。

満足度調査及び必要性調査(※)及び経営指導員等の点検反省結果を「経営発達支援計画検討会」にて最終評価を行い、見直し案を提示する。

なお、月1回行う正副会長会議で、経営発達支援計画の進捗状況についてチェックを行う。

4. Act (処置・改善)

「経営発達支援計画検討会」にて提示された評価結果に基づいて、改善案を示し改めて同検討会の指示を受ける。



※ 現在、小規模事業者 30 社に対して満足度調査及び必要性調査を巡回指導時に行っているが、この調査項目と調査対象事業者数を見直しながら実施する。

## 9. 経営指導員等の資質向上等に関すること

### (1) 現状と課題

資質向上への取組みは、これまで職員個々の努力に任されていたが、組織的に資質向上に取り組むためにも、定期的な事例検討会や先輩職員同行によるO J Tに取り組む。



## (2)事業内容

全国商工会連合会・愛知県商工会連合会が主催する研修に加え、中小企業大学校の主催する研修に経営指導員が参加することで、売上げや利益を確保することを重視した支援能力の向上を図ることはもちろんだが、豊田市内商工会を中心とした愛知県商工会連合会豊田支部内7商工会の経営指導員協議会及び稲武商工会の業務内において事例検討会やOJTを通じた情報共有をはかり支援能力の向上をはかる。

### ①愛知県商工会連合会豊田支部内7商工会による経営指導員協議会として

方法	愛知県商工会連合会の嘱託専門指導員等の専門家を交え、各経営指導員が持ちよった事例をもとに「事例検討会」を実施する。
内容	実施回数：2～3回開催（年間） 各経営指導員が支援先の情報を持ちより「事例検討会」を実施し、支援能力の向上を目指す。

### ②稲武商工会として

方法	全職員による「事例検討会」を実施する。 経営指導員と他の職員と帯同し、全員が、経営分析、事業計画策定・作成支援ができるように案件を担当させる。
内容	事例検討会は1回／月を実施する。 OJTや「事例検討会」を通して支援策を検討することにより、各職員の支援業務に必要な「対話力」「診断力」「構想力」「編集力」「突破力」の5つの力のランクアップを目指す。

### ③データベース化

担当経営指導員等が基幹システム上のデータ入力を適時・適切に行い、支援中の小規模事業者の状況等を職員全員が相互共有できるようにすることで、担当外の職員でも一定レベル以上の対応ができるようにする。

## 10. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること

### (1)現状と課題

これまでは、上部団体である愛知県商工会連合会との連携が中心であり、他の支援機関との連携は弱いものとなっている。事業者の課題が複雑化していく中、より専門的で、より広範囲的な対応が必要であり、関係支援機関との密接な連携の構築をはかる。

### (2)事業内容

小規模事業者の課題解決のための支援力向上のため、新たな協議会の発足や、より多くの支援機関との連携を強化し、情報交換や情報共有をはかっていく。

#### ①「稲武地域まちづくり協議会との連携」（月1回）【拡充】

豊田市、稲武商工会、いなぶ観光協会、(株)どんぐりの里いなぶ、稲武地域会議、稲武地区区長会他各種団体で構成し、平成27年6月26日設立した。この協議会では今後の地域経済活性化の方向性やまちづくり構想の策定、市への支援要請、更にはイベント等の調整や情報交換を行う。商工

会では、この協議会に地域小規模事業者の実情を伝え、地域活性化計画に反映できるよう活動するとともに、地域活性化に向けた情報収集と共有化をはかり、地区内小規模事業者に提供していく。

「稲武地域まちづくり協議会との連携」で情報交換する主な項目

- ①現状分析結果を踏まえた課題の抽出
- ②各機関の将来構想及び計画概要
- ③各機関の役割の明確化

## ② 「地元金融機関との連携」 (年1回) 【新規】

豊田信用金庫、愛知県信用保証協会並びに愛知県商工会連合会豊田支部(みよし、藤岡、小原、足助、下山、旭、稲武)の7商工会は「小規模事業者に対する経営改善支援への取組みに関する覚書」を締結した。それを踏まえて、稲武商工会では小規模事業者の経営改善計画策定等の経営改善に向けた支援の実効性を高めるため、地元豊田信用金庫と年1回以上の定期的な情報交換会の実施により連携を深める。

「地元金融機関との連携」で情報交換する主な項目

- ①地域内開廃業の現状
- ②融資における現
- ③個社支援の情報共有による事業性評価と融資の促進状況分析

## ③ 「各関係機関との連携強化」 (年1回) 【拡充】

日本政策金融公庫と西三河地域の14商工会で実施するマル経連絡協議会(年1回開催)で各地域の経済動向、金融需要動向についての情報交換を行う。また、愛知県商工会連合会、あいち産業振興機構(よろず支援拠点)、中小企業基盤整備機構の専門家派遣制度を積極的に活用し、小規模事業者へ専門家と経営指導員が同行することにより、小規模事業者の高度化、多様化する支援ニーズに対応した支援ノウハウの修得をはかる。

また、支援ノウハウは経営カルテやワークシート等でデータベース化し、全職員で情報共有することにより、支援先の支援に役立てる。

## 1.1. 地域経済の活性化に資する取組に関すること

### (1) 現状と課題

これまで、道の駅「どんぐりの里いなぶ」を中心とした地域活性化事業に取り組んできたが、事業を行う事が中心になっていた。しかし、本来の目的である、活性化事業を活用し、地域製品の販路拡大や、消費者の指向の調査把握をし、小規模事業者の販路拡大支援や起業に結びつける。

### (2) 事業内容

地域活性化事業

国土交通省の選ぶ重点道の駅35箇所の一つに選ばれた道の駅「どんぐりの里いなぶ」はレジ通過者が年間40万人を超す稲武地区の交流拠点である。この道の駅「どんぐりの里いなぶ」を中心に、稲武地域のまちづくり構想の策定や稲武地域で行われる各種イベントの連携や調整をはかる「稲武地域まちづくり推進協議会」と連携を取りながら、稲武地域の地域活性化事業の推進をはかる。

稲武地域は人口2,200人強の過疎と高齢化に悩む地域であり、地域外から多くの人に訪れていただき、交流人口を増やすことが消費の拡大につながり、資金循環が好転する事につながり、小規模事業者の育成や創業者の増加につながる。

#### ① ふるさとふれあいウォーキング「歩かまい稲武」の開催

名古屋市及び中津川市との「ふれあい協定」の趣旨に基づく交流事業の一環としてウォーキング

大会を開催

開催日：5月第3日曜日

コース：どんぐり工房前駐車場をスタートし、稲武城址、名倉川遊歩道、大井平公園、古橋懐古館、瑞龍寺、八幡神社そして町並みをとおり、どんぐり工房前駐車場にゴールするコース

参加者数：1,000名

稲武地区を歩いていただき、稲武地区の自然や観光をPRするとともに、稲武地区の地域振興に寄与することができる。

また、土産品等の販売、中馬弁当の作成・販売と多くの事業所が売上の確保と事業PRをはかる。



(目標)

項目	単位	実績	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
出店事業所数	社	12	12	14	14	16	16

## ② 稲武おいでんまつり

豊田市の最大イベントである「豊田おいでんまつり」は、市内の複数会場で開催されるおいでんまつりをマイタウンおいでんとして、市内各所で開催。稲武地区でも夏の恒例行事となっている。

開催日：7月第1土曜日

開催場所：稲武福祉センター多目的広場

参加者数：500人（内踊り連250人）

効果

- ・踊り連として、市内中心部から多くの若い世代が稲武地区を訪れ、稲武地区の地域振興に寄与する。
- ・土産品等の販売により、多くの事業所が売上の確保と事業PRをはかる。

(目標)

項目	単位	実績	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
出展事業者数	社	6	6	7	7	7	8

③ 地域貢献型ワークスペースの整備【新規】

新型コロナウイルスの感染拡大により、リモートワークの導入が進むなか、ワーケーション（リモートワーク＋バケーション）に注目が集まっている。移動することが喜びや幸福感を生み出し、自然とつながることで生産性の向上やストレス軽減が期待できると言われている。また、地元の遊休資産の活用や、人と人との交流にもつながることが期待される。

そこで、事務所を移転させたため、利用頻度が大きく減少している商工会館を「地域貢献型ワークスペース」として整備し、働くことを目的として地域外の人・企業が流入する仕組みの構築めざす。これらの効果を最大限に発揮するために「ワークアンドローカルコーディネーター」を設置する。

この事業により、リモートワークによる働き方改革や新たなネットワークの創出につながり、関係人口の創出やUJIターンの増加が期待される。

※「地域貢献型ワークスペース」とは

シェアオフィス・コワーキングスペース・イベントスペース等の複合施設。

ターゲット

- (1) コワーキングスペースの利用（都市部や山村地域で働くフリーランスの方がドロップインで利用）
- (2) ワケーションでの利用（都市部で働くフリーランスや企業従事者がドロップインで利用）
- (3) サテライトオフィスとして利用（都市部企業の一部事務機能を期間利用契約で利用）
- (4) 企業研修で利用（都市部企業の人事研修の会場として一日単位で貸切利用）

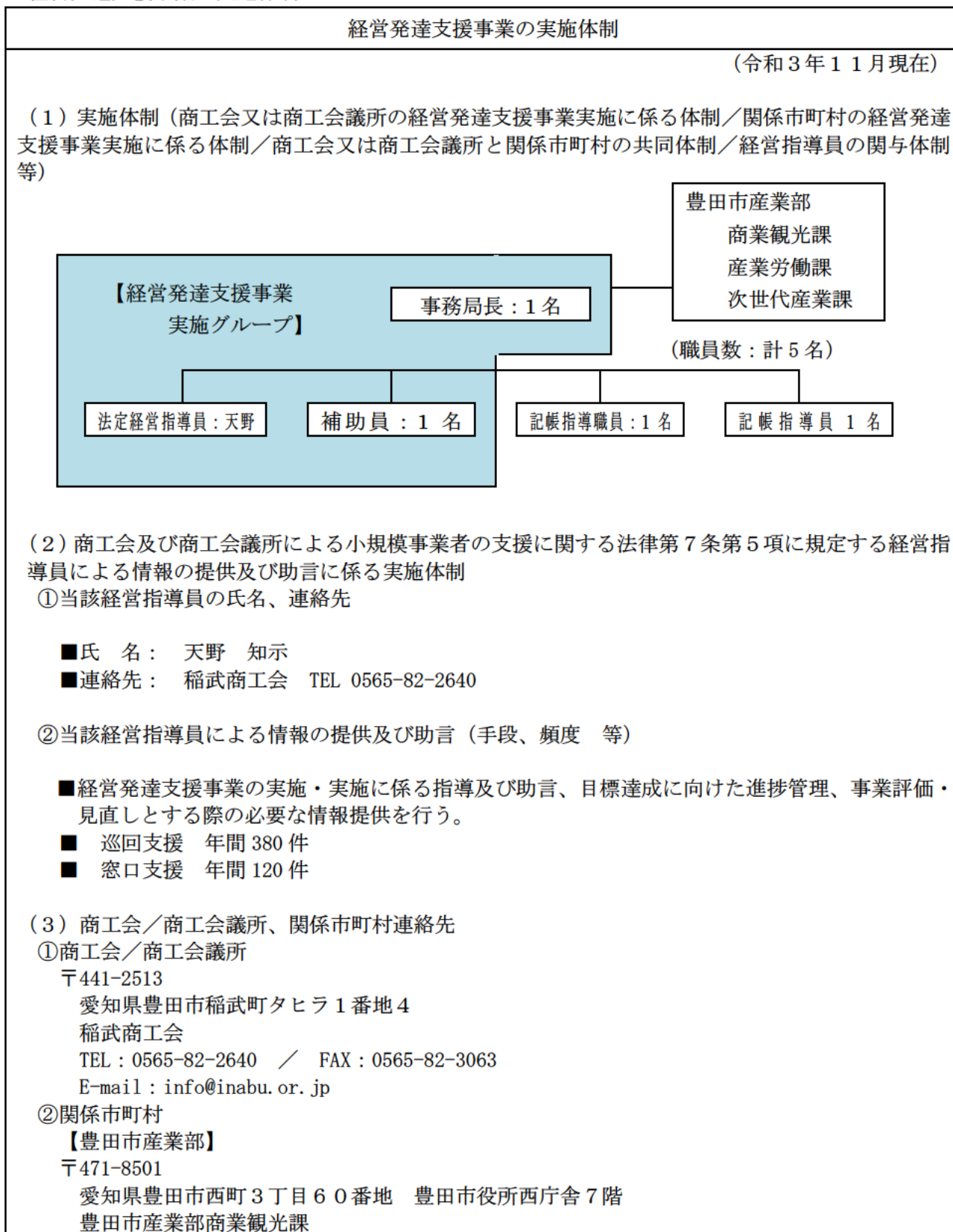
豊田市企画課、トヨタ自動車㈱新事業企画部と連携し、実証実験を行いながら令和4年4月の事業スタート目指す。

（目標）

項目	単位	実績	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
利用者数	人	-	-	100	150	150	200

(別表2)

経営発達支援事業の実施体制



TEL : 0565-34-6642 / FAX : 0565-35-4317

E-mail : shoukan@city.toyota.aichi.jp

〒471-8501

愛知県豊田市西町3丁目60番地 豊田市役所西庁舎7階

豊田市産業部産業労働課

TEL : 0565-34-6641 / FAX : 0565-35-4317

E-mail : sangyou@city.toyota.aichi.jp

〒471-0023

愛知県豊田市挙母町2丁目1番地1 ものづくり創造拠点SENTAN2階

豊田市産業部次世代産業課

TEL : 0565-47-1250 / FAX : 0565-47-1252

E-mail : monozukuri-sozo@city.toyota.aichi.jp

(別表3)

経営発達支援事業の実施に必要な資金の額及びその調達方法

(単位 千円)

	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
必要な資金の額	5,300	5,300	5,300	5,300	5,300
旅費・事務費等	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
講習会開催費等	300	300	300	300	300
各種調査費等	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
展示会出展費等	500	500	500	500	500
配達便事業費等	500	500	500	500	500
ギフト受注事業等	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300

(備考) 必要な資金の額については、見込み額を記載すること。

調達方法
①小規模事業経営支援事業費補助金 ⇒ 愛知県補助金 ②豊田市中心小企業団体等事業費補助金 ⇒ 豊田市補助金 ③会費収入 ⇒ 会員より年1回(6月)に口座振替 ④特別賦課金 ⇒ 展示会出展料等を集金 ⑤受託料 ⇒ 商工会が受託している事務受託料等の収入金

(備考) 調達方法については、想定される調達方法を記載すること。

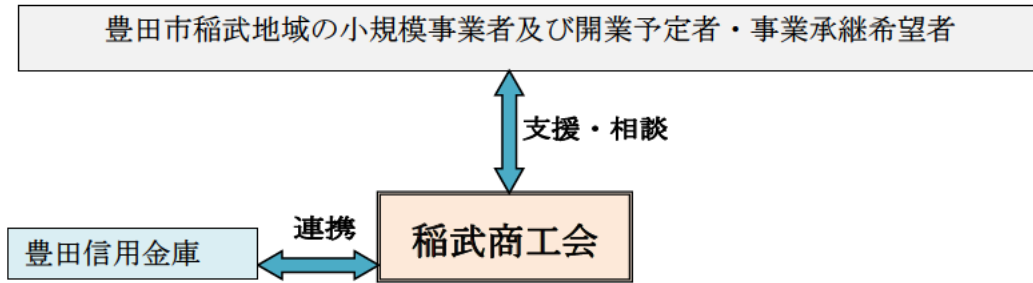
(別表4)

経営発達支援計画を共同して作成する商工会又は商工会議所及び関係市町村以外の者を連携して経営発達支援事業を実施する者とする場合の連携に関する事項

連携して事業を実施する者の氏名又は名称及び住所 並びに法人にあっては、その代表者の氏名
<p>●豊田信用金庫 理事長 小木曾 鉦三</p> <p>〒471-2513 豊田市元城町1丁目48 TEL 0565-36-1227 FAX 0565-36-1399 担当：豊田信用金庫経営支援部</p> <p>〒441-2513 豊田市稲武町タヒラ19 TEL 0565-82-2551 FAX 0565-82-2550 担当：豊田信用金庫稲武支店</p>
連携して実施する事業の内容
<p>① 地域の経済動向調査と情報共有 アンケート結果等の地域情報の共有をはかる</p> <p>② 経営状況の分析並びに事業計画策定を支援 経営分析、事業計画策定を専門家派遣や窓口相談でサポート</p> <p>③ 事業計画策定後の実施を支援 事業計画実施を専門家派遣や窓口相談でサポート</p>
連携して事業を実施する者の役割
<p>① 地域の経済動向調査と情報共有 ・豊田信用金庫…独自に行っているアンケート結果等の地域情報の共有</p> <p>② 経営状況の分析並びに事業計画策定を支援 ・豊田信用金庫…専門家派遣や窓口相談でサポート</p> <p>③ 事業計画策定後の実施を支援 ・豊田信用金庫…専門家派遣や窓口相談、金融支援でサポート</p>



連携体制図等



[連携内容]

- ①市内の経済動向に関する情報を共有し、連携して情報提供できる体制を整備する。
- ②経営分析・事業計画策定並びに策定後のフォローアップにおいて、連携して課題解決にあたる。